The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	「口の健康 Part-3」開会の挨拶
Author(s)	関, 淳一
Citation	目で見るWHO. 2017, 63, p. 4-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86636
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

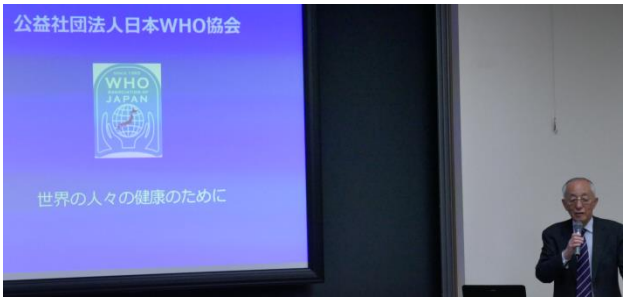
The University of Osaka

●日本 WHO 協会フォーラム「口の健康 Part-3」開催報告

平成 29 年 2 月 24 日に大阪歴史博物館において～健口から健康へ～をテーマとして、日本 WHO 協会フォーラム「口の健康 part3」を（一社）大阪薬業クラブ助成で開催致しました。

「口の健康 Part-3」開会の挨拶

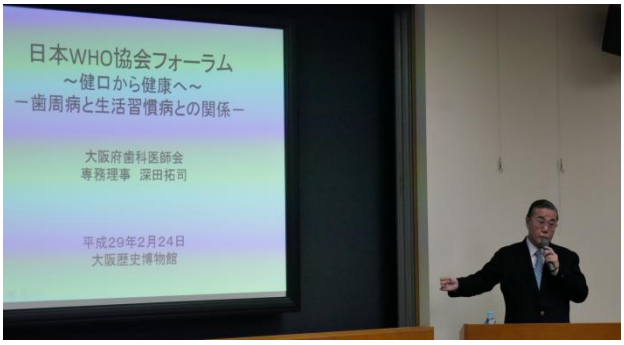
日本ＷＨＯ協会理事長　関　淳一



本日はお忙しい中、私たちのフォーラムに御参加頂き、誠にありがとうございます。今回のフォーラムのタイトルは「口の健康 Part3」で、歯を含めた口腔の健康の問題を取り上げるのは 3 回目となります。そのうち 1 回は東京で開催したのですが、当協会では今日迄口腔の健康と全身の健康の関連を重要なテーマとして取り上げてきました。

本日は大阪歯科大学の田中昌博先生と大阪府歯科医師会の深田拓司先生に講師をお願いして、フォーラムを開催させていただきました。言うまでもないことですが、咀嚼は生きていく上で欠かせない栄養の摂取に関係しています。栄養のもとになる食物は口から入るわけですが、咀嚼し嚥下したら、消化・吸収という生理作用が動き出すことにつながります。

本日は講演していただく田中先生の講演タイトルに、今は未だ一般には少し耳慣れない言葉ですが「補綴（ほてつ）歯科」という表現を入れさせていただきました。補綴とは簡単にいえば歯を補う義歯ということになりますが、タイトルにあえて「補綴」を使わせてもらったのは、すでに超高齢社会に入っている日本では、今後補綴歯科が非常に大事な存在になると思うからです。補綴が良くできておれば咀嚼も十分でき、おいしく食べられるようになるでしょう。補綴という言葉も、将来はごく一般的な言葉になると信じております。



深田先生の講演テーマ「歯周病と生活習慣病」ですが、糖尿病に始まって心筋梗塞や脳卒中、骨粗しょう症、妊婦の場合なら早産など、全身の健康と歯周病が密接に関連しているという問題について話していただきます。これが大々的な問題になったのは 1993 年にアメリカで開かれた世界歯周病学会だったわけで、その後多くのエビデンスが積み上がってきて、今では両者の関係が一般にもよく知られるようになってきました。

歯科と医科のきちっとした連携体制なしには、一般市民の健康は守れないと私は強く思っています。医科歯科連携の体制が今の日本の考え方でよいのかどうかという辺りも、大事なテーマの 1 つだと思っています。